

- 1 派遣期日 平成27年11月13日（金）
2 研修先 学校名 鴻巣市立田間宮小学校
所在地 埼玉県鴻巣市糖田2985番地
<http://tamamiya-e.konosu.ed.jp/>

3 研修内容

自己への問いかけを深め、よりよい生き方を求める道德教育
～多様で効果的な指導方法の改善を目指して～

（1）研究の内容

① 授業研究部

ア 道德科の年間指導計画の改善

（ア）年間指導計画（別冊）や別葉の作成と活用

（イ）1時間の学習指導過程の確立

基本的な指導過程を「気付く」「とらえる」「深める」「見つめる」「あたためる」として、「第〇回道徳」の枠使用や「登場人物の短冊」「ワークシートの蓄積」などある程度の共通事項を決めて授業実践を行った。

（ウ）「読み取る」道德から「考える」道德へ

指導案の留意点の欄は、「主人公の気持ちに託して自分との関わりで考えさせる」ことを明記。

イ 指導方法の工夫

（ア）話し合い活動を充実させ、意見の交流を活発にするために

指名の工夫・座席・発問・教師の切り返しの発問・役割演技・動作化など

（イ）自分自身を深くみつめさせるために

ワークシートの工夫・板書の工夫・心のものさし・手紙・アンケート

わたしたちの道德 など

② 環境整備部

ア 道德科授業における環境整備

（ア）道德科教材の作成・保管

（イ）年間指導計画に準じた「別葉」の掲示

教師がいつも通る場所に掲示し、確認できるようにした。

イ 校内環境整備及び体験活動の充実

（ア）教室内の道德コーナーの作成

「道德の木」を設置し、授業の軌跡が分かるようにし、内容項目別に色を分ける。

（イ）体験活動の充実

車いすバスケット、太鼓ワークショップ、菊づくり（一人一鉢運動）など

③ 調査・啓発部

ア 児童保護者の実態調査

（ア）重点項目に関する実態調査及び分析

（イ）道德科の授業の実態調査

イ 道德教育の啓発

（ア）道德通信「ぐんすく」の発行

（イ）校内における道德環境の整備

「なかよし川柳」「ぐんぐんすくすく田間宮っ子生活カード」など

ウ 人材活用

・ゲストティーチャー・保護者・地域の方々の授業参加



(2) 授業の実際

- ① 動作化や役割演技を取り入れ、自己への問いかけを深める。
 - ・ 動作化で主人公の言動をまねたり、役割演技で演じたりする活動は、自分との関わりで必然的に考える場面を作れることに利点があった。
- ② ワークシートや事前アンケートの活用
 - ア ワークシートを活用する根拠を明らかにして使用する必要がある。
 - イ 事前アンケートは、自分との関わりで考えることから「見つめる」の段階で使うことはよい。
- ③ 発問や板書を工夫して、葛藤場面を深く考えさせる。
- ④ 指導案について（・は、赤堀先生からの指導内容）
 - ア 主題名 ・ 内容項目が思い浮かべられるような主題がよい。
 - イ ねらいと教材
 - ウ 主題設定の理由
 - （ア）ねらいや指導内容のとらえ方
 - ・ 本時だけでなく、授業者が教育活動全体で、この内容項目について日頃児童をどのような思いで指導するのか、思いを記述する。
 - （イ）児童の実態と教師の願い
 - ・ 内容項目についての授業者の思いを構成するために、これまで各教科等でどのような指導を行い、現在、児童がその内容項目に関してどのようなよさがありまた、どのような課題があるのか、その結果児童にどのようなことを考えさせることが必要なのかを記述する。
 - （ウ）教材の特質や具体的な活用方法
 - ・ 教育活動全体で指導した結果としての児童の実態から、資料をどのように活用して授業を展開するのか示す。あらずじは必要ない。
 - エ 学習指導過程
 - ・ 学習指導過程における指導の工夫・発問構成は、道徳的価値の自覚を深めることにつながっているか確認。
 - オ 板書計画
 - カ 教材分析
 - ・ 主人公の気持ちを自分との関わりで考える道徳的価値についての分析。

(3) 講演 『これからの道徳教育の課題と展望』

－「特別の教科 道徳」の目指すところ－

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 赤堀 博行 先生

- これまでのいわゆる「教科化」をめぐる論議
- 「道徳の教科化」が求められる背景
- 道徳に係る小・中学校学習指導要領一部改正のポイント
- 教育活動全体を通じて行う道徳教育の進め方
- 学校における道徳教育
- 各教科等の指導を通じて道徳性を養うための視点
- 道徳教育全体計画の別葉の作成

4 感想

道徳授業を「考える授業道徳」「議論する道徳」へと転換を図り、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育が充実され、自立した一人の人間として、他者とともにによりよく生きるための基盤となる道徳性が育成していくことの大切さを、実感することができた。

週1時間の道徳の授業を確実にに行っているかということ、国語か道徳かとなった場合、国語を優先してしまう。道徳の授業の確実な実施のための取り組みとして、「第○回道徳」を板書に書くこと、「道徳の木」を設置し、授業の軌跡が分かるようにすることはよい取り組みだと思った。教師の意識も「やらなければ」と変わる。

児童が、これから出会う様々な場面で、状況に合わせて適切に判断したり、選択したりして道徳的な行動ができるように今後の授業に取り組んでいきたい。